

魚沼まい子

第2号

南魚沼森林組合 組合内報
発行 令和3年11月1日
発行責任者 組合長 関正太郎
南魚沼市舞子 1819
電話 025-783-3349

高性能林業機械を導入 利益還元可能な林業へ

※木材1mとは・・・末口50cm、長さ4mの丸太1本

なる。今まで経験を踏まえて実施業面積の拡大を目指す。

③湯沢町有林

現在具体的に施業団地は決定していないが、今後湯沢町と協議を重ね、取り組んでいきます。

(2) 主伐

当地域の木材品質評価として、民有林の多くが植樹後あまり手入れがなされていない状態であり、建築用A材の生産はあまり期待できない。したがって、主にBランク材（合板用）を中心とした生産と販売収支計画を立てる必要がある。したがってこれから山を見て、木を見て、採算性を考えて、所有者と相談しながら利益還元可能な適地をさがして行きたいと考えている。 (9月23日 小島副組合長記)



湯沢町井森団地の間伐

小島副組合長 (私案)

令和4年度 木材生産目標

・間伐材	25ha	1, 750 m ³
・主伐材	2ha	750 m ³
・一般材 (工事現場他)		500 m ³

令和4年を木材生産拡大元年に

1. ウッドショック

米国を中心にコロナ禍で住宅需要が高まっており、北米での木材価格が1年前の3倍以上に跳ね上がっている、又いち早く景気回復をした中国でも住宅着工が堅調で木材需要が高い、更には世界的な貨物船やコンテナ不足で日本の輸入できる量に限界があるなど、様々な事情が絡みあって輸入木材及び製品の大幅な不足と価格の上昇が続いている。こうした現象を「ウッドショック」と表現され今後長期化しそうな様相である。

2. 国産材に好機

日本は森林資源大国でありながら、国内の木材の年間総需要量、約7,800万m³(丸太換算)に対し、木材自給率は年々増加傾向にありながらも38%しかなく62%は輸入材に依存している現状である。国内に充分供給できる森林資源を持ちながらも循環型林業の構築の遅れが、このような現象になっている。又、我々現場サイ

ドでも、この地域特有な急峻な地形や小規模な経営面積、更には林道整備や機械化の遅れ、労働力不足等様々な要因もあり、急な増産体制にシフトすることは難しい。

しかし、今の様な木材需要増や価格の上昇は我々林業事業者にとっては好機ととらえ、対応していくことが責務であると考えます。

3. 高性能林業機械の充実

魚沼地域の森林の齢級構成が平均50年生から60年生に達し、正に保育期から伐採利用期を迎えつつある。この事により当組合としても伐採・搬出・有利販売、更に森林所有者への利益還元へとシフトしていく必要がある。そこで、作業の安全性向上や作業能率を高め、コストダウンを図るべく高性能林業機械の充実が求められ、令和元年度にプロセッサを導入、又今年度はフォワーダを導入(令和4年1月納車予定)する。そこで今後現場設計技術・伐採技術・機械操作技術、更

には木材の目利き技術を技術員全員が高めていただき木材生産拡大を目指していきたいと考えている。

4. 木材需要と価格の動向

コロナ感染症に対する知識や予防対策の知見が広がり、経済活動もゆるやかに動き出したことにより、国内でも住宅着工戸数が8月は対前年比7.3%増の74,300戸(持ち家だけでみると14.5%増)となっており、木材需要や価格とも上昇傾向にある。特に建築用下地合板については海外でもコロナによる人材不足で生産が停滞している。このような状況で当組合で取引いただいている新潟合板振興(株)でも需要の増と原木丸太の不足で、丸太の在庫が1か月分しかない状態が続いている。原木丸太価格についても対前年

比20%上昇しており、今後更に上昇の含みもある。他、木質バイオマス発電、ペレット、オガ粉、パルプ用いずれも原木丸太不足が深刻で冬を前にして各社とも原木丸太確保に奔走している状況にある。

5. 令和4年度施業計画

(1) 間伐

①大和大倉地区

令和元年度より始まった新たな「森林経営管理制度」に基づいて、南魚沼市で進めている大倉地区の約65haの所有者意向調査と森林経営管理権の設定がほぼ完了し、令和4年度より施業が始まる。森林組合としても積極的に取り組んで行きたい。

②塩沢長崎地区

森林組合が独自で集約化と森林経営計画を樹立し、取り組んで3年目と

ハンマーナイフモア購入 木材センターの一部解体 導入フォワーダに補助金

9月開かれた理事会はハンマーナイフモアの購入を決めた。草刈り作業を快適・省力化し、その分を森林整備に充てられる▼旧製材所建物の一部が雪害で破損、その部分を取り壊すことを理事会は承認した▼来年度から使うフォワーダの導入に補助金がつくとこの報告が理事会であった。各行政の担当者に感謝し有効に機械を使いたい。

編集 魚沼まい子第2号をお届け
後記 します。今号は小島副組合長の(私案)でした▼残念なことには半世紀の間で産業としての地域林業は壊滅しています。それに伴い林業の言論は一方的で垂れ流しのみです▼魚沼まい子は今赤ちゃんですが皆さんで丈夫に育てて行きたいと願っています。今号は組合長・関と職員・中條が担当しました。
生(題) 南魚沼市雷土新田 書家和田芳山先生の揮毫